

(資料5) 最終処分場は安全に有害物質を保管できるとは限らない

資料収集 馬場利子

■最終処分場：井戸から高濃度塩化物イオン（毎日新聞 2012年3月22日）

<http://mainichi.jp/select/science/news/20120322k0000e040249000c.html>

東日本大震災後、放射性物質を含んだ下水道汚泥や焼却灰などが搬入された千葉県君津市の管理型最終処分場で、検査用の井戸から高濃度の塩化物イオンが検出され、処分場内にたまっている水が漏れいしている可能性が高いことが分かった。

塩化物イオン自体に有害性はないが、廃棄物に含まれている放射性セシウムが流出する可能性もゼロではないことから、千葉県は慎重に分析を進めている。

千葉県によると、処分場の底部は遮水シートで覆われている。検査用の井戸で漏れいの有無もチェックしているが、県は1月、この井戸水から1リットル当たり250～580ミリグラムと高濃度の塩化物イオンを検出。

運営会社「新井総合施設」が昨年12月に測定した同26～31ミリグラムを大幅に上回ったため、県は同社に廃棄物の搬入停止と原因調査を勧告した。同社は県の調査に「雪や氷を溶かすため処分場の通路にまく融雪剤が検査用の井戸に入り、塩化物イオンが検出された可能性がある」などと説明した。

ところが、関係者によると、融雪剤がまかれた通路の近くにある複数の井戸のうち、塩化物イオンの濃度が低い井戸もあったことなどが県や同社の調査で判明。県は融雪剤混入ではなく、施設内の水が漏れ出た可能性が高いと判断した。

ただ、埋め立て面の底にある漏れいを感知するセンサーではトラブルは確認できず、遮水シートが破れた可能性は低いという。県はセンサーがない埋め立て面の側面などから漏れた可能性もあるとみて調べている。

同処分場は県内最大規模の管理型処分場。県内の下水道汚泥などを処理していたが、塩化物イオン検出で搬入は止まっている。

同社側は毎日新聞の取材に「処分場外からの影響と、（内部）保有水からの影響の双方から原因の究明に努めている。今後も安全・安心な運営に全力を尽くします」とコメントしている。

■ドイツ:アッセの放射性廃棄物最終処分場に見る危機的状況 - デイリー

http://ima-ikiteiruhushigi.cocolog-nifty.com/nature/2008/07/3_e9bb.html. more close. News.
www.dailymotion.com/.../xfu2g3_yyy-yyyyy...

ドイツの最終処分場で地下水の汚染が問題になっている。

■平成23年3月 滋賀県

クリーンセンター滋賀遮水シート破損事故検証委員会報告

<http://www.kouka.ne.jp/~skj-ccs/jyouhou/PDF/ken.iinkai/report/report.pdf#search>